

事業報告書（令和7年度）

事業名 北長瀬みんなの遊び場

団体名 北長瀬みんなの遊び場の会

担当者名 石田愛子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

場所 北長瀬未来ふれあい総合公園（岡山市北区北長瀬表町2丁目17-20付近）

<企画1>こどもまつり 当日 令和7年9月20日(土)10~13時

説明会 令和7年8月9日(土)

参加者：227名

内容：子ども手作りのお店やさん、物のお譲り会他



(様式第8号)

<企画2>ベーゴマ遊び

令和7年6月14日(土)雨天中止により→6月21日(土)10~14時に延期

令和7年12月6日(土)10~14時

講師：おかやまベーゴマくらぶさん

内容：講師を招いてベーゴマの回し方、削り方、デコレーション、ベーゴマ大会の開催

参加者：合計142名



<企画3>みんなで食事作りと遊び場

令和7年7月12日(土)10~14時 そうめん流し

令和7年10月18日(土)10~14時 持ち寄り味噌汁作り

令和7年11月15日(土)10~14時 持ち寄りカレー作り

参加者：合計207名

内容：持ち寄り食材で食事作りを行い、遊び場で一緒に食事を食べる。

(様式第8号)



予約不要・参加無料

北長瀬

みんなの遊び場

開催日 10/4(土) 10/18(土) 11/1(土) 11/15(土) 12/6(土) 12/13(土) 12/20(土)

10:00~14:00

場所：北長瀬未来ふれあい総合公園
(岡山市北区北長瀬表町2丁目17-20付近)

ものづくり、土あそび、次の体験、自然の素材や素材を使い、自分の「やってみたい」を実現できる遊び場です。大人はできるだけ手伝い、口出しをせず、前向きな姿勢で楽しみながら、子どもたちを見守ります。「やってみたい」を大切にすることは、自分を実践すること。遊び場を自由に楽しむ機会が、子どもたちの心を豊かに育みます。

主催・問い合わせ：北長瀬みんなの遊び場の会
asobib2023@gmail.com 090-5624-7869 (代表/石田)
岡山ESDプロジェクト参加事業、外遊び体験推進事業
後援：岡山市教育委員会

開催はここ

<企画4>お茶を飲みながらお話し会

令和8年1月10日(土)10~14時

参加者：77名

内容：七輪のやかんで淹れたコーヒーやココア、お餅やお菓子のふるまいを行う。七輪を囲んでほっと休んでもらったり、友人やスタッフとお話したり、子育ての悩みなどを傾聴する。



<企画5> プレーリーダーを招いての森遊び 令和8年2月7日(土)10~14時

講師：NPO 法人岡山市子どもセンター 久保田将裕氏

参加者：28名

内容：森でのロープワークやナイフ、火起こしなど、新しい遊びをリスク管理と共に学ぶ。



<企画6> 作戦会議

令和7年6月28日(土)10~12時

令和7年7月26日(土)10~12時

令和7年8月23日(土)10~12時

令和7年9月27日(土)10~12時

令和7年10月25日(土)10~12時

令和7年11月22日(土)10~12時※スタッフ体調不良により中止

令和7年12月27日(土)10~12時

令和8年1月24日(土)10~12時

令和8年2月28日(土)10~12時(予定)

内容：遊び場の振り返りや、それを活かしながら次の計画について打合せを行う。

参加者：合計64名

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

全体の事業を通じて、「子どもは地域みんなで育てられる」「お互いに助け合って子育てできる」という認識で、子どもをおおらかに見守り、楽しみながら子育てしてもらう事ができた。持ち寄り食材での食事作りでは、はじめはお金を出して美味しい食事を食べる喜びを体験した参加者が、次からは自分も食材を持って来て、みんなに美味しい食事作りをふるまう側になってくれた。

子ども達にとっては、自分のやりたい事にのびのびと挑戦でき、時にはほっと休みながら、「自分は自分のままでいい」と安心感を持って過ごしてもらえた事がアンケート結果から分かった。

(下記は参加者アンケート)

「年子の4歳3歳を育てています。どこに行っても目を離してはいけない、と緊張がちなのが、この遊び場だと親も気楽にいられます。適度な広さや道具の数がいいのかな。不思議な空間です。」

「子どもが本当に楽しそうに、あちこちに興味をもって遊んでいる様子が見られるので、すごく好きです。水遊びは鉄板です。夏場の丘滑りは他ではできないですし、本当に楽しそうです。おままごと大好き。泥や水をつかったり、木片があったりで、なにも遠慮せず遊べるのもいいと思います。あわせて、子ども同士がいつの間にかコミュニケーションを取り合っていてくれるので、大人も木陰で気がつくつとぼーっと過ごせていたりするのも最高です。木がある環境もいいなと思います。親子に大事な空間、時間だなと思っています。」

「遊び場さんのところで何か遊んでいる子ども達の集中力がすごい気がします。」

② どのように学び合いを取り入れたか

・講師を招いて新しい遊びの企画を行い、参加者親子に参加してもらう事で、子どもにも大人にも様々な遊びを知ってもらう事ができた。岡山ベーゴマくらぶさんによるベーゴマ遊びでは、習得した子どもや大人が他の子どもに教えたり、一緒にバトルすることで、参加者同士が共に遊びあいや学び合いをすることができた。

・こどもまつりでは、いつも来場者側の参加者が企画側に回ることで、普段できない経験と学びを得られた。

「イベントでこどもまつり、本当にいいです。年上の子どもたちが接客や呼び込みをしているのを見て、ふだんのごっこ遊びよりもより具体的にお店を意識したようで、自分の看板、私がする活動のなかでの役割にすごく意識が高まりました。」(参加者アンケートより)

・お話し会では、飲み物やお菓子などをふるまいながら自由にお話しながら、お互いが子育ての悩みを話したり、多様な子育て経験や考え方を聞ける機会となった。参加者の子育て中の悩みとしては、「不登校、登園いき渋り」「メディアとの付き合い方」「習い事をした方がいいか」などがあつた。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

毎月、作戦会議を行い、活動の振り返りを行った。振り返りで出た反省は、「どうすれば良かったか」話し合い、いつから、どのように変えていくかを具体的に決め、議事録に残し、実践した。また、「よかったこと」については、メンバーで共有したり、SNSで発信することでさらに継続した。

例えば実際に出た意見としては「子ども同士のいざこざがあり、親が呼ばれて介入したが、介入しない方が子どものためには良かったのではないかと思った。子どもにできるだけ任せてみる、というコンセプトをもっと参加者のみんなと共有していきたい」というものがあり、その後の遊び場ではコンセプトをラミネートしたものを毎回掲示したり、SNSでも周知した。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

・紙媒体、WEBを通して参加者アンケートを実施した。アンケート結果から、何度も来ている参加者が9割以上で、遊び場に参加して「良かった、とても良かった」と回答した参加者も9割以上であったことから、多くの参加者に遊び場を有意義に感じてもらったことが分かった。

・また、こどもまつりでは、お店屋さんを開いた18人のうち「最初にやりたいと思っていたことができた」と回答した人は15人、「できなかった」は1人、未回答は2人だった。感想では「友達と考えて準備をしたり、その時間が楽しかった、また来年もやりたい」（小学生）や、「私も来年はお店やさんをしたい」（小学生/来場者）といった、お店屋さんだけでなくお客さんとして参加した子どもも買い物をする中で、自分も新しいことに挑戦したいという気持ちを起こさせる良い影響を与えた事が分かった。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

・アンケートの内容から、子育てを楽しんでいる人も何かしら悩みを持っている事が分かった。今後はその悩みも共有できるよう、子育ての講師などを招いて参加者と共に学んでいきたい。

・子ども達がのびのびと遊び、親も子ども自分らしくいられる遊び場を今後も継続・発展させ、北長瀬未来ふれあい総合公園を子育て拠点となる場所としたい。

・今後は、地域の学生や、他地域のプレーパークとも連携して、岡山全域で子ども達が安心して遊べる環境を担保していきたい。